

里山に つどう人々

広島県の中でも
自然あふれる庄原市。
森に近く、自然と共存して
暮らすひとたち。
最近増えています。

庄原暮らし歴
6年



まえだ けんじ
前田賢治さん

まえだ農園 代表

〈家族構成〉

- 前田賢治さん
- ちえ 智永さん
- 妻 たいき 太基くん
- 息子 ゆうき 有紀ちゃん
- 娘 あき 安紀ちゃん
- 娘 まりこ 万里子さん
- 母親

トマト農家に転身 新鮮な日々感謝

広島県の最北端に位置する高野町は、冷涼な気候のおかげで高品質な農産物が採れ、特産のりんごも大根は県内でも有名。若い農業者が多い地域でもある。冬には雪の多さを活かして「雪合戦」の広島県大会が開かれる。

会社員時代、近隣の転勤を機に、妻の智永さんと高野町へ帰ってきた前田さん。地元で農家を営む同級生た



「アンジェレ」という糖度の高いブランドミニトマトを栽培。いろいろな栽培方法を試している。



「宝石のようにキラキラと輝くアンジェレ」。収穫後は首都圏の高級スーパーなどで販売されている。

ちと集う時間を持ち、そこで聞く「ものづくり＝農業」の話題は前田さんの農業への想いを強くするばかり。忙しい毎日に追われながらも休日を利用して農業研修に参加するなど準備を進め、2014年3月末で19年間勤めた会社を退社。翌日の4月1日から農家としての歩を踏み出した。「人生は度きり、自分が思った道を進もうと。何より農業にふさわしい恵まれた環境が目前にありました。市役所や農協をはじめ、地元の人たちの協力もあって心強かったです」と前田さん。

農業を志した時から、地域貢献への想いはあったという前田さん。現在は合同会社を設立して加工品開発や店舗運営も行っており、広島県で3年ぶりに農林水産省から六次産業事業者として認定も受けた。前田さんが作るトマトがふんだんに使われた料理が食べられる農家キッチンでは、パタリテイ溢れた姿で働く地域の方や県内外から訪れる来客で活気づいており、地域に新たな賑わいを生んでいる。「夢は高野に住む人が増えること。うちは空いた部屋がたくさんあるので、ここで農業をしたい方がいけば受け入れていきたいですね。」地元の農業者に感化され農業を志した前田さん。今では農業を志す若者やこの町に活力を与える存在となっている。



智永さんとお母さんの万里子さん、保育園に通う3人の子ども6人家族。子どもたちは率先してお手伝いしてくれるそう。



前田さんが営む農家キッチン「とま」では、自家製のトマトや季節に応じた野菜や山菜が使われた定食が人気メニュー。「道の駅たかのだけでなく、尾道松江線を降りて、りんご狩りしたりこのお店まで足を伸ばすなど高野町を知ってほしい」と前田さん。



学生時代は国体出場、実業団のスキー部でも活躍した前田さん。現在、冬の間は広島県の競技スキーのコーチを務めている。



「これ食べられるんよ」と山野草を採ってきたり、自然の中を走り回ったりしている子どもたち。日々新しい発見を持ち帰る子どもたちの側にいつもいられる環境こそが、前田家の幸せ。

温かい仲間がいる 「頼母子(たのもし)会」

同級生の会、ママ友の会、祭りの会、お嫁さんの会など、高野町には「頼母子」と呼ばれる集まりがたくさん！人と人の絆が強い田舎ならではの集まり。